

大震災から5年。復興はまだ道半ばです。今年も、東日本大震災復興支援募金にご協力ください。



◀ 2011年4月19日、震災直後の南三陸町

2016年2月3日現在。瓦礫は撤去され、市街地は埋め立てが進んでいます ▼



2011年3月11日、東日本を襲った大地震と原発事故から5年が経過しました。被災地の瓦礫はほとんどなくなり、新しい道路や建物が建設されています。しかし震災で失われたものはあまりにも大きく、真の復興には程遠い状況です。グリーンコープは震災直後より、※公益財団法人 共生地域創造財団を通して被災地の方々に寄り添って支援を続けてきました。地域や産業の復興に向けて頑張っている方々を、これからもみんなの力で応援していきましょう。

※グリーンコープ、ホームレス支援全国ネットワーク、生活クラブ生協が連携して、被災地の復興支援などをしながら、共生地域の創造をめざす団体

東日本大震災復興支援募金

【受付期間】 3月7日～3月19日

申込番号

001 一口 300円

002 一口 500円

※51号と52号の共同購入申込書でお申し込みください。

※【例】1000円の場合は、
002 一口500円の数量欄に、「2」と記入してください。

これまでの募金の状況 (2015年12月20日現在)

組合員と取引先の皆さんから寄せられた5年間の募金総額	2億9308万9595円
共生地域創造財団での活用(拠出)	1億8300万0000円
グリーンコープ独自支援に活用(拠出)	7467万9323円
残高	3541万0272円

おおふなと
岩手県大船渡市

共生地域創造財団 大船渡事務所

高齢者などの孤立化が進んでおり、共生地域創造財団大船渡事務所では、市から委託を受けて仮設住宅や在宅被災世帯の見守り訪問などを続けています。



2011年

◀ 大津波に襲われ、大船渡市全体が壊滅的な被害に見舞われました



▲ 2015年12月17日、大船渡市赤崎町の仮設住宅を訪問する財団スタッフ

はまぐりはま おりのはま
宮城県石巻市 蛤浜・折浜

2011年



▲ 大津波に襲われ目を覆う惨状となった蛤浜と折浜。家屋の多くは崩壊し、船は流され、港一帯が地盤沈下してしまいました

構想中



震災前は牡蠣養殖で生計を立てていた漁師の皆さんは、浜の復興をめざし、価格下落や悪天候による被害なども乗り越え、牡蠣の出荷を再開しました。共生地域創造財団による石巻の若者たちの就労訓練事業にも協力いただいています。



◀ 2016年2月現在の蛤浜



▲ 就労訓練生による牡蠣の出荷作業のようす

◀ 就労訓練生の作業場や休憩場となり、漁師さんや地域の方々と交流もできるよう、蛤浜にコミュニティハウス(いこいの家)の建設も考えています

おながわ
宮城県女川町

コミュニティスペースうみねこ

仮設住宅の中で孤立していたおかあさんたちの生きがい作りのために始まった集会所での布草履作り。元漁師のおとうさんたちの居場所とやりがい作りのために、2013年に果樹園作りのプロジェクトを立ち上げ、イチジクや野菜の栽培を始めました。



▲ ゆめハウスの果樹園



▲ 2014年にオープンした果樹園カフェゆめハウス

わたり
宮城県亶理町
WATALIS

震災後、女性たちのコミュニティと生きがい作りをめざし、不要になった着用地を使って、手仕事ワークを始めました。これまでに延べ4500人もの女性たちが、手仕事ワークショップに参加。地域で暮らす幅広い年代の女性たちの居場所や交流の場となっています。2016年2月には、コミュニティカフェもオープン。



◀ 手仕事ワークショップのようす

福島では、今もなお、故郷を離れて暮らす たくさんの方々がいます。まだまだ支援が必要です。 ぜひ募金にご協力ください！

原発事故や大津波の影響により、福島県では今も57,775人(2015年12月10日現在)の方が住み慣れた土地を離れて避難生活を強いられています。故郷へ帰る目処も立たず、生活や健康上の不安を抱えた方も少なくありません。グリーンコープは被災地での支援を続ける中で、福島で暮らす子育て中の母親や子どもたちと出会いました。そのつながりを大切にしながら、これからも支援を続けていきます。



▲2015年12月11日、福島県内にて。除染作業で除去された汚染土の入った袋が野積みされています

福島県 こどものいえ そらまめ



グリーンコープから、おいしいものがある詰まった荷物が届きました。

福島市にある保育園「こどものいえ そらまめ」は、原発事故の影響により、園児の多くが県外避難のために退園。保育園自体も放射線量の高い地域にあったため移転を余儀なくされました。グリーンコープからの食材支援が始まり、子どもたちも先生たちも少しずつ元気になっています。



「グリーンコープの食べものっておいしい！感激！」と園長先生からお便りをいただきました。

東日本大震災 復興支援募金

【受付期間】3月7日～3月19日

申込番号

001 一口 300円
002 一口 500円

※51号と52号の共同購入申込書でお申し込みください。

※【例】1000円の場合は、**002** 一口500円の数量欄に、「2」と記入してください。

福島県 南相馬・避難勧奨地域の会

「南相馬・避難勧奨地域の会」では、自分たちが住んでいる地域の土壌などの放射線量を独自に測定し、広く住民の皆さんに知らせる活動をしています。会の活動に役立てていただこうと、グリーンコープの放射能測定室で以前使用していた残留放射能測定器(NaIシンチレーション測定器)を贈呈しました。



▲贈呈した残留放射能測定器を設置した後、グリーンコープから使い方の説明をしました

福島県 ひまわりプロジェクト

グリーンコープなど日本各地の支援者が栽培したひまわりの種を、福島のNPO法人シャロームがひまわり油として製品化・販売し、その売り上げを福島の子どものための保養事業に活用しています。



神在太陽光発電所にて

放射線量を心配せずにのびのびと遊びました。



2015年夏、小学生から高校生までの10人の「子どもひまわり大使」が福島から九州を訪れ、グリーンコープ関係者や組合員と交流し、福島の現状や原発事故後に感じたことを報告しました。

福島県 福島ぽかぽかプロジェクト

放射線量の高い地域に住み、避難したくても避難できない福島の子どもたちや妊婦さんに、週末だけでも放射線量の低い場所で過ごしてもらおうと、保養活動を行っています。



グリーンコープは、産直びん牛乳やたまご、新鮮な野菜などを保養先に届けています。

福島県 かわうち 川内村の方々

川内村の皆さんが避難している郡山南一丁目仮設住宅への支援

福島第一原発から30km圏内の川内村は、2014年に一部を除き避難指示が解除されましたが、多くの方々は村に戻らず郡山市の仮設住宅に暮らし続けています。



◀郡山南一丁目仮設住宅



▲郡山市の仮設住宅では、共生地域創造財団のキッチンカーが大活躍。温かい食事や新鮮な野菜などを提供しています